

キラリ 輝く 秋穂っ子

～学校・家庭・地域 同じ思いで子どもを育てる～

【山口市 秋穂中学校区】

地域の概要

秋穂地域は平成 17 年 10 月に、旧山口市と周辺 4 町が合併し山口市となりました(平成 22 年 1 月には旧阿東町と合併)。

古くから秋穂八十八ヶ所霊場めぐりの地として知られ、瀬戸内海の恵みを受け気候温暖で、昭和 30 年代まで入浜式塩田による製塩業が営まれていました。

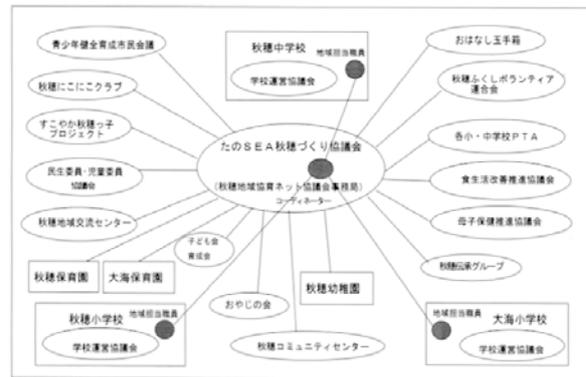
また、藤永元作博士(萩市出身)によるクルマエビ養殖事業発祥の地としても知られ、クルマエビ養殖の盛んな地でもあります。

人 口	6,721 人	
世帯数	2,526 世帯	
対象校及び園児児童生徒数	秋穂中学校	169 人
	秋穂小学校	163 人
	大海小学校	122 人
	秋穂幼稚園	16 人
	大海保育園	79 人
	秋穂保育園	58 人

組織の内容

秋穂地域では、平成 24 年 6 月に地域づくり組織である「たの S E A 秋穂づくり協議会」を母体として「秋穂地域協育ネット協議会」を設立しました。これは、既存の団体を緩やかにネットワーク化したもので、学校・家庭・地域がそれぞれの責任と役割を自覚しながら相互に連携し、地域の宝である子どもたちを住民総参加で育てていくことを目的としてつくられた「子育ての応援団」です。

「秋穂地域協育ネット協議会」組織図



特色・重点的な取組

秋穂地域協育ネット協議会では、「キラリ 輝く 秋穂っ子～15 年間で育てたい秋穂の子ども像」を掲げています。秋穂地域では、この「子ども像」を学校・家庭・地域で共有して「自立する子ども」の育成をめざしており、秋穂中学校区内 3 校の学校評価項目を見直し、共通の評価項目を設けることで 15 年間継続した「子ども像」を位置付けています。

それまでの各校評価項目をカテゴリ化するなど比較、検討し、「思いやりのある子」として「あいさつ」「地域や家庭でのマナーやルール」、「夢につなげる子」として「学習習慣」「読書習慣」、「ふるさとを愛する子」として「そうじ」「地域を生かした特色ある教育」の六つを共通項目に設定しました。このことによって、秋穂中学校区では、各校学校評価アンケート結果をスケールとして、学校間や地域間で、また経年による比較・検討が可能になるなど、「キラリ 輝く 秋穂っ子～自立する子どもの育成」をめざした取組について、学校運営協議会や地域協育ネット協議会等、地域全体で課題や成果を共有しています。

主な活動の紹介

【活動事例1】秋穂あいさつ運動（秋穂中学校・秋穂小学校・大海小学校）

「元気なあいさつ秋穂っ子」を育むために、3校合同学校運営協議会で「熟議」を行いました。提案された方策は、各校の生徒会や児童会を中心に「校内あいさつ週間」を設定するなど各校に応じた取組を行ったり、地域協育ネット協議会も共催し、中学生が母校である各小学校に出向き、地域の方や教職員とともに「秋穂あいさつ運動」を実施したりしています。



秋穂あいさつ運動

【活動事例2】「浜村杯秋穂ロードレース大会」開催支援（秋穂中学校）

輝かしい実績のある秋穂出身の名ランナー故 浜村秀雄 氏の偉業をたたえたロードレース大会の開催支援を、毎年中学生が地域関係者とともにを行っています。大会前日には、走路となる一般道の清掃・整備をはじめ、会場となる中学校運動場トラックを花で彩ったり、大会本部や選手が利用する場を設営したりするなど、大切な地域イベントを支えるために全校生徒が活動しています。



浜村杯開催支援

【活動事例3】学校運営協議会委員・教職員・保護者等の合同研修（秋穂小学校）

P T Aや地域関係者へ参加を呼びかけるとともに、秋穂小校内研修としても位置付け、学校運営協議会委員・教職員・保護者・主任児童委員等が参加し、C Sコンダクターの指導を仰ぎながら、「学校支援」・「地域貢献」の観点から「熟議」を行い、多くの具体的なアイデアが提案されました。



C S 合同研修会

【活動事例4】校内音楽会に向けて（大海小学校）

大海小学校では、毎年校内音楽会を実施しており、2学期が始まると11月の音楽会に向けてパート練習が始まります。ピアノ教室の先生など「地域の先生」が何度も来校され、器楽演奏や全体的な指導など、専門的な立場からの継続的な支援を行っており、音楽会は大成功でした。



音楽会に向けて

【活動事例5】レノファが秋穂にやってきた！（秋穂地域協育ネット協議会）

レノファ山口の石原GMを講師に、大海小・秋穂小高学年児童、秋穂中全校生徒、地域の方を対象とした講演会「夢をもつ大切さ」を実施しました。また、現役選手やスタッフ6名を先生に「レノファサッカー教室」も開催し、小雪舞う寒さの中、体の使い方やボールの扱い方の練習、ミニゲームなどを通して、子どもたちは楽しくサッカーに親しむことができ、心に残る体験となりました。



レノファサッカー教室

成果と課題

コーディネーターの席を、地域交流センターや3校の職員室に配置し、支援依頼や具体的活動の調整などがスムーズに行えるようになりました。また、学校運営協議会や各種研修会、会議等への学校職員の参加機会が増えたことで、学校・家庭・地域の「思いや願いの交流」も充実しつつあります。課題としては、次世代のコーディネーター候補者の育成と、地域住民に対し、「地域協育ネット」の活動をなお一層周知し、固定化しがちな支援者を広げていくことです。

今後の取組

次世代のコーディネーター候補者の育成については、県教委が開催する養成講座等への地域からの参加を促進し、活動への理解を広げていきたいと考えています。活動の周知については、協育ネット広報紙「キラリ輝く秋穂っ子だより」の発行と地域内全世帯への配布を計画しています。